

委員会視察報告書

| | |
|------|---|
| 委員会名 | 議会広報広聴常任委員会 |
| 視察地 | 栃木県 足利市議会 |
| 調査項目 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学生とのまちづくり討論会、高校生との意見交換会 ・中学生への出前講座 ・オンライン議会報告会 |
| 調査目的 | 中学生・高校生・大学生の若年層向けやオンライン活用など先進的な取り組みを調査・研究し、柏崎市議会での広報広聴活動のさらなる進化につなげるため。 |
| 日時 | 令和4（2022）年11月1日（火）午後1時～午後3時 |
| 場所 | 足利市役所3階 足利市議会第3委員会室 |
| 調査概要 | <p>1. 広報広聴常任委員会について 平成30(2018)年度にそれまでの広報委員会と議会報告会・意見交換会実行委員会を統合して広報広聴委員会とした。令和元（2019）年度に栃木県内最初の常任委員会化として広報広聴常任委員会とした。</p> <p>2. 議会報告会・意見交換会について (1) 地域住民を対象とした議会報告会・意見交換会 平成25（2013）年11月に議会報告会を初開催。場所は市内公民館。日程は5月及び11月。班編成は3常任委員会単位、時間は90分で議会報告会と意見交換会の2部制。新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降 YouTube を利用し、市議会ホームページのトップページに1か月間掲載。その後議会報告会のページで公開を継続。</p> <p>(2) 高校生を対象とした議会報告会・意見交換会 平成29（2017）年11月に実施。参加人数は市内県立高等学校生徒48名と全議員24名。場所は足利市研修センター。時間は120分で議会報告会と意見交換会の2部制。</p> <p>(3) 大学生とのまちづくり討論会 平成30（2018）年10月に実施。参加人数は足利大学工</p> |

学部学生 35 名、議員 21 名。場所は足利大学工学部キャンパス。時間は 90 分で基調講演会とまちづくり討論会の 2 部制。

3. 中学生への出前講座について

平成 30 (2018) 年 12 月に実施。場所は各中学校で平成 30 (2018) 年度は 6 校、令和元 (2019) 年度は 7 校。日程は中学 3 年生が社会科で地方自治を学ぶ 12 月とした。時間は 50 分程度で全体説明と質疑応答の 2 部制。班編成は 1 チーム議員 2 名の 12 チームで、学校のクラス数に応じて派遣。

令和 3 (2021) 年 12 月はオンラインにて実施。YouTube を利用し、市議会ホームページのトップページに 1 ヶ月間掲載。その後議会報告会のページで公開を継続。

上記の項目に関して、広報広聴常任委員会の金子 裕美委員長からの説明を受け、質疑応答を行った。

視察の様子



| | |
|---------|--|
| 質 疑 応 答 | <p>質問 高校生や大学生との意見交換会、オンライン議会報告会はどのような経緯で始まったのか。</p> <p>回答 女性や若い世代が参加しやすくなるような実施方法を検討した結果、次代を担う若者への地方議会に対する興味・関心の喚起を目的として実施。</p> <p>コロナ禍においても市民に対し議会活動および市政に関する情報を提供することを目的として、市議会ホームページに動画を掲載することで議会報告会を実施。</p> <p>質問 高校生や大学生との意見交換のテーマ設定や参加者募集で、どのような工夫をしているか。また学生の反応はどうか。</p> <p>回答 直近の議会の議案で市民生活、とりわけ高校生に深く関連のあるものとして「市立図書館が県から移管されたことについて」「旧足利西高校の用地および校舎を県から取得したことについて」の2点をテーマとして扱った。</p> <p>学生からの意見として「バスや電車の本数を増やしてほしい」「商店街を活性化させたい」「図書館の開館時間を長くしてほしい」など、高校生からたくさんの意見があった。</p> <p>都市計画を専門に学ぶ大学生との意見交換により、まちづくりについて若者らしい発想と新しい考え方に触れるため「都市景観」「観光」をテーマとして設定し、足利市のまちづくりについて議論を行った。</p> <p>学生からの反応として「少人数で話し合うことで、内容の濃い話ができ、たくさんの意見が出た」「学生が表現に困ったときに、議員からの助言があり、そこから話や意見が広がった」などの感想があった。</p> <p>質問 市民、学生からいただいた意見、要望等をどのように取り扱っているか。</p> <p>回答 地域住民向けの各会場で出た意見を内容ごとに所管の常任委員会に振り分け、議会の意見を付したのち「市民からの意見・要望事項の取りまとめ」を作成し、市長に提出。</p> <p>高校生からの意見を内容ごとに集約し「高校生からの意見・要望事項」を作成して市長へ提出。その後、実施結果について報道機関へ情報提供したほか、議会ホームページ及び議会広報誌に掲載。</p> <p>大学生のグループごとに発表内容を集約し、議員の所見</p> |
|---------|--|

| | |
|-------|--|
| | <p>や足利大学学長からの総評、大学生からのアンケート結果などをまとめた実績報告書を作成し、市長に提出。その後、実施結果について報道機関へ情報提供したほか、議会ホームページ及び議会広報誌に掲載。</p> <p>質問 議会報告会・意見交換会の今後の課題は。</p> <p>回答 参加者の減少や高齢化が顕著となっていることから、女性や若い世代の参加を増やすことが一つの課題。現在、各団体を対象とした議会報告会・意見交換会を検討していて、今年度は消防団を対象として実施予定。</p> <p>質問 中学生への出前講座はどのような経緯で始まったのか。</p> <p>回答 女性や若い世代が参加しやすくなる実施方法を検討した結果、次代を担う若者への地方議会に対する興味・関心の喚起を目的に実施。</p> <p>質問 中学生への出前講座は今後も実施予定か。継続の場合の課題は。</p> <p>回答 今後も継続して実施予定で検討していて、今年度は11月・12月に対面での実施を予定。 今後の課題は、若者の政治離れを防ぐといった目的を実現していくため、50分という短い授業時間での内容の工夫が必要と考える。</p> |
| 委員会所感 | <p>【三宮 直人】 高校生や大学生との意見交換会および中学生への出前講座を実施するまでの過程が聞けたのはよかった。また、オンライン議会報告会を実施している点は、コロナ禍などに関わらず柏崎市でも準備しておく必要があると思った。収穫の多い視察だった。</p> <p>【星野 幸彦】 柏崎市議会の課題である若者や女性に対する”広報広聴”の取り組みについて、足利市では高校生や大学生との意見交換会など精力的に行っている。柏崎市は2つの大学があり、この点においても検討の必要性を感じた。 また広報の部分では中学生への出前講座やオンライン出前講座など積極的な広報活動が行われており、特にオンライン議会</p> |

説明会は柏崎市でも検討途中にあるが、効果的な広報につながるのではないかと思う。

【重野 正毅】

まずは、市役所へ到着した時の出迎えに感激しました。

議会の取り組みを広報すること以上に、市民の思いを市政に生かしていくための広聴活動の重要性を改めて感じました。

市民との意見交換会だけでなく、大学生とのまちづくり討論会、高校生との意見交換会、中学生への出前授業など柏崎市でも考えていることを既に実施している足利市のノウハウを取り入れ、柏崎市に適した方法で立案し、実行していく必要性を感じました。足利市議会では、この広聴活動に一丸となって取り組んでいこうとしている様子を感じられ、そのことが広報広聴常任委員会を後押ししていこうとする雰囲気をつくっているように思いました。

【田邊 優香】

足利市では高校生や大学生との意見交換や中学生に対する出前授業などを行い、次代を担う若い世代が地方議会に対し興味・関心を持ってもらえるようにしているとのことである。

コロナ禍においても市民に対する議会活動や市政に関する情報を提供することを目的とし、オンラインでの議会報告会を行っており市民と議会との距離が近い感じを得た。柏崎市でも今後は若い世代と意見交換ができるように考えるべきと感じた。

【白川 正志】

会津若松市と同様に、多世代・多分野の市民との関わり合いをつくり、より多様な広聴広報につなげているか？—の視点で視察に臨んだ。高校生との議会報告会・意見交換会および大学生とのまちづくり討論会、中学生への出前講座などを通して、市議会の役割や価値を知ってもらい身近な存在であることを伝える機会としては有効と感じた。柏崎市においても若年層からまちづくりに興味をもってもらい、多世代が交じり合っの参画を促す目的を市全体としてはどのように位置づけ活用していくかに関して、本質を見極め探究し続ける必要性を考える機会となった。

【樋口 良子】

まず、驚いたのは、市役所に到着したら、広報広聴委員会の委員長様他3名の議員が、玄関でお出迎えしていただいたこと。

また、実際携わってこられた体験を踏まえた委員長の説明は大変参考になった。特に高校生を対象とした意見交換会は、校長会会長と協議し内諾を得たこと、さらに、参加学校を直接訪問して参加依頼していること、進行の要ともいべきファシリテーターの研修も実施し、進行を円滑に進めていること、中学生への出前授業で、市議会の仕組みなどを説明しているなど大変勉強になった。コロナ禍のオンラインでの事業は、当市議会の今後の課題と感じた。

【相澤 宗一】

やることなすこと、斬新さを感じる足利市であった。

- ・足利市議会広報広聴委員会は令和元年に栃木県内初の常任委員会化、議会に関する行政視察には所管する委員会の議員自らが説明などおもてなしをされているとのこと。(市役所に着くなり、広報広聴メンバーのミニ横断幕による熱い歓迎を受けた。驚きとともにしっかりやらねばという気にさせられる。)
- ・議会報告会・意見交換会においてはコロナ発生後、オンライン配信をされており、中身を見てもらうため冒頭の議長挨拶が5秒間(いたずらに短いものでなく、リサーチしての時間)であったこと。
- ・報告会や意見交換会への参加者は高齢者が多く、かつ固定化の傾向にあるのはどの自治体も悩みの種であり、女性や若い世代の参加率向上戦略としての中学生、高校生、大学生への興味と関心の喚起を目的にされたこと。

これらの斬新さや目の前の課題をまっすぐに受け止め取り組まれているのは、何事にも素通りを許さない、というよりは、素通りされない魅力を自ら持つための取り組みである足利市のスローガンに忠実であると感じた。

【若井 恵子】

足利市では多くの市民の意見を反映するため、地域住民はもとより、若い世代や女性が参加しやすくなるよう議会報告会、意見交換会を行っている。政治参加の意義や主権者教育の一環として高校生や大学生を対象に行っている意見交換会は若い世代に関連のある議題をテーマに扱うなど工夫を凝らして行って

いる。また、議会に対する興味や関心を持っていただくために中学校での出前授業を行なっているが、市議会の仕組みや役割について議員自ら説明することにより出前授業での満足度の評価は高い。当市においても学校現場へのアプローチは行っていくべきではないかと考える。

【阿部 基】

足利市では高校生を対象とした意見交換会や中学生への出前講座を実施しており、次世代を担う若者の意見を取り入れている。また、動画やオンラインを活用し、市議会の仕組みや議会報告会を行っていた。コロナ禍においても市民に対して議会活動の情報を提供することは重要であり、見習うべき点であった。

意見交換会の参加者減少傾向は同じ課題であったが、足利市では消防団など団体との意見交換会を予定しており、改善を図っている。柏崎においても若者との意見交換会を行えるよう改善を進めたい。